

視覚障がい者向け「音声読み上げスキャナ」を開発

インテックは視覚障がい者のショッピングがもっと身近なものになることを目指し、手に取った商品を手軽に認識できる「音声読み上げスキャナ」を開発しました。

本製品は高精度な画像認識技術に加え、スマートフォンの画面を見ることができない場合でも、商品を正しく写すことができる独自開発のフレームイン技術により、視覚障がい者のショッ

ピングをサポートします。今後、商品情報を保有する企業との連携を強化し、認識可能な商品を増やしてまいります。

さらに国立大学法人筑波技術大学と連携し、本製品の有効性を目的とした実証実験を重ねて、より使いやすいサービスを目指してまいります。

■お問い合わせ先

株式会社インテック 先端技術研究所 E-mail:info-ati@intec.co.jp TEL:076-444-8012



音声読み上げスキャナアプリ利用イメージ

金融国際情報技術展 FIT2017にTISと共同出展

2017年10月、インテックは東京国際フォーラムで開催された国内最大級の金融機関向けITフェア「金融国際情報技術展 FIT2017」にTISと共同で出展しました。

展示ブースではインテックの金融機関向け総合情報系システム「F³（エフキューブ）」とTISの国際ブランドデビットカードシステム「DebitCube+」の共同展示を行い、グループの強みを活かした連携ソリューションを紹介しま

した。

他にも、FinTechをはじめとした金融業界のトレンドを盛り込んだセミナーを開催し、インテックは「F³（エフキューブ）」の地方銀行への導入事例を中心に最新のソリューションを紹介しました。

TISインテックグループでは、今後もグループシナジーを活かして共同事業を推進し、ICTを活用してお客さま支援をさらに充実させてまいります。



東京国際フォーラムで開催された「金融国際情報技術展 FIT2017」インテック出展ブース

F³(エフキューブ)クラウドサービス、採用が進む

今年度、F³（エフキューブ）クラウドサービスが地方銀行で急速に採用数を伸ばしています。

2017年10月には山口フィナンシャルグループや栃木銀行に採用されるなど、前年度比3倍を超える金融機関に採用されており、システム導入や運用に伴うコストの低減、最新のCRM機能を速やかに活用できることに、評価をいただいています。

さらに、2017年11月にはF³（エフ

キューブ）シリーズの新サービスである「広域ビジネスマッチングサービス」が九州フィナンシャルグループに採用されました。傘下の肥後銀行および鹿児島銀行は、本サービスを活用しグループ間における顧客ニーズの橋渡しを実現しています。

インテックは、今後もF³（エフキューブ）サービスの拡張を続け、お客さま本位の業務運営と地域支援をサポートします。

※CRM（Customer Relationship Management）：顧客関係性管理



■お問い合わせ先

株式会社インテック
金融ソリューションサービス事業本部
金融ソリューションサービス企画部
E-mail:f3_info@intec.co.jp TEL:045-451-2424

富山第一銀行とともに北陸初の仮想通貨実験を実施

2017年10月、インテックと富山第一銀行は「富山ブロックチェーン研究会」の活動の一環として、共同で仮想通貨の検証実験を行いました。

同研究会では、地域におけるブロックチェーンの応用案創出、および関連する人的ネットワークの形成を目的に、産学協同で研究活動を行ってきました。

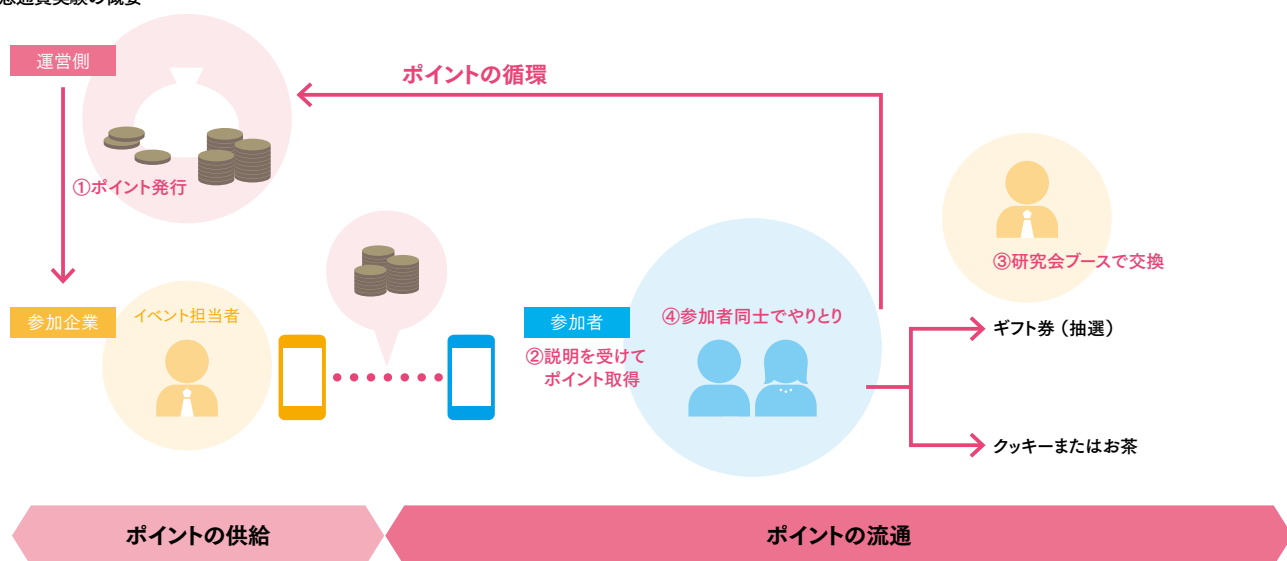
今回はインテックと富山第一銀行が主体となり、「富山県ものづくり総合見本市2017」の会場内で仮想通貨を流通させることにより、地域における仮想通貨の可能性を探りました。

本実験を通じて、仮想通貨のやり取りは関係者間の会話を促すことが明らかになったほか、来場者の人数、属性、

人の流れの可視化にもつながりました。

インテックは今後も、技術開発・検証実験を積極的に行い、ブロックチェーンが社会インフラを支える安心・安全な基盤となることを目指してまいります。

仮想通貨実験の概要



「第2回TISインテックグループハッカソン」を開催

2017年10月21日、22日の2日間、インテックとTISは共同でグループ内の人材交流を目的とした「第2回TISインテックグループハッカソン」を開催しました。

TISのインキュベーション施設「bit & innovation」（東京都新宿区）にて、「インテックの統合データ活用サービス『ARQLID』をベースとしたスマートフォンアプリ開発」をテーマに、グループ9社より11チーム、52名が参加しました。

各チームは本番に先立って10月6日

に開催したアイデアソンの結果から、「働き方改革」「子供やお年寄りの見守りサービス」「婚活」といった話題性のあるテーマを選び、デモアプリやアプリ紹介の動画作成に取り組みました。最終日はインテック、およびTISの役員向けのプレゼンテーション（=ピッチ）に挑み、2日間の成果を発表しました。

優秀賞は「フラリーマン」をテーマにデモアプリを開発した、ネクスウェイ・インテック合同チームが受賞。これは働き方改革に関連して、社員が



就業後の時間を有意義に過ごせるお勧めスポットを紹介するアプリで、ハッカソン参加者からも「ぜひ使いたい！」との声が上がりました。

TISインテックグループ楽友会、第4回定期演奏会を開催

T I S インテックグループ楽友会（代表：インテック 執行役員 荒野 高志）は、1月、第4回定期演奏会を開催しました。楽友会はグループ社員で構成する音楽団体として2014年6月に設立され、会社や職制の枠を超えた約100名がグループの一体感“和”の表現にチャレンジしています。本会は定期演奏会をはじめ、入居ビルのロビーにおけるランチタイムコンサート、老人ホームにおける訪問演奏会やコンクール出場など、多岐にわたり活動しています。

東京都江東区の江東公会堂（ティアラこうとう）で開催した今回の定期演奏会では、吹奏楽による「サウンド・オブ・ミュージック」や管弦楽による「仮面舞踏会」のほか、今回新たに立ち

上げた合唱チームによる「フィンランドディア」など、全8曲を披露しました。また今回は旭化成東京混声合唱団にも

友情出演していただきました。楽友会は今後も本活動を通じて、みなさまに音楽の魅力をお届けしてまいります。



「Smile Family Day ～家族と一緒にインテック体験～」を開催

2017年7月28日、社内の3拠点（東京、富山、名古屋）をつなぎ、社員の家族向け職場見学会「Smile Family Day ～家族と一緒にインテック体験～」を開催しました。

これは日々、社員を支えてくれる家族が、当社とその事業に関する理解を

深めるとともに、「インテックのファン」になっていただくことを目的に企画したものです。社員の子供ら約50名が参加し、職場見学をはじめ3拠点を結んだTV会議によるクイズ大会、VR技術を活用したロボット操作を行ったほか、東京本社では代表取締役社長の

日下 茂樹、代表取締役副社長の鈴木良之との名刺交換体験も行いました。

インテックは今後も社員のみではなく、その家族も参加できるイベントを増やすことで、社員のワーク・ライフ・バランスを推進し、働きやすい職場環境づくりに努めてまいります。



左:クイズ大会 右:東京本社の参加者



2018年度入社予定者の内定式を開催、入社に向けて決意新たに

内定者205名へ内定通知書授与

2017年10月3日、インテックは東京駅前のJPタワーKITTEにて、2018年度入社予定者の内定式を開催しました。

この式典には内定者205名が出席し、専務執行役員 人事部長の林 弘明が内定通知書を授与しました。また、常務執行役員の今里 直人が講演し「共に新しい社会インフラを作ろう」とエールを送りました。式典は厳かな雰囲気

で進行し、内定者は緊張した面持ちながらも決意に満ちた様子で参加していました。

懇親会では和やかに交流

その後の懇親会は代表取締役社長の日下 茂樹の挨拶の後、役員6名も参加して内定者と交流し、大いに盛り上がりました。

2018年4月には高校卒業者と今回参加が叶わなかった内定者を加えた、208



名が入社予定です。今後、同期の絆を大切にしながら、一歩ずつ成長してくれることを大いに期待しています。

「IVIつながるものづくりアワード2017」にて「優秀賞」、「特別賞」を受賞

一般社団法人インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（以下、IVI^{※1}）が主催する「IVIつながるものづくりアワード2017」において、インテックが参加する2つのワーキンググループ（以下、WG）は「優秀賞」と「特別賞」を受賞しました。

「みんなの予知保全-次世代センシング技術による予知保全データの活用WG」は優秀賞を受賞。これは中小企業の現場で溶接不良を検知する技術を展開しうる可能性が評価されました。

また、「品質データのトレーサビリティWG」は特別賞を受賞しました。データのサイバー（ICTで実現される

バーチャルな世界）領域とフィジカル（実際のモノづくりの現場の世界）領域を、セキュリティを確保しながら明確に分離し、使い分けた点が評価されました。

インテックは今後も本活動を通じて、

製造業を中心としたさまざまな企業と人的ネットワークを形成するとともに、IVIの目的である「つながる工場」^{※2}の実現に向け、大手システムインテグレータとしてITの側面から支援してまいります。



右：インテック 先端技術研究所 シニアスペシャリスト 堀 雅和
左：インテック メディアセンター 松村 信之

※1 IVI：デジタル化社会に対応した次世代の「つながる工場」を企業や業界の枠を超えて実現することを目的とした組織・団体です。国内の自動車、電機、機械などの大手製造会社、ITベンダなど合計226社が参加しています。（2017年8月9日現在）

※2 つながる工場：モノをつくるプロセスで、工場だけでなくバリューチェーン上のさまざまな企業が連携する形です。工場の設備や機器が工場の垣根を越えて相互に連携することによって、製造の現場と消費者とがダイレクトにつながります。ドイツのインダストリー4.0でも提唱されているコンセプトです。

インテック2018年3月期 第2四半期決算 過去最高を更新

インテックは第2四半期決算にて、売上高・経常利益・純利益それぞれ過去最高を更新しました。

なお、T I S インテックグループも前年同期比で増収増益となりました。

現在、働き方改革に伴う残業抑制や

少子高齢化への対応により、ITサービスの需要が高まりつつあります。こうしたニーズから、IT関連事業の拡大に向け2018年度の新卒採用数を今年度春実績の約2倍にあたる200名規模に拡大しました。

今後も、社名「INTEC」に込めた理念を追求するとともに、お客さまの競争力の強化を積極的にご支援することで社会に貢献し、業績拡大に努めてまいります。